

知床自然教室の30年

2009年度の活動報告

「よみがえれ知床」発刊によせて 辰濃和男さんインタビュー

斜里町がしれとこ100平方メートル運動をスタートしてから30余年。原生の森を復元するという夢に対して、これまでのべ6万人以上の方々にご賛同いただきました。

運動地内のエゾヤマザクラは、今年も可憐な花を咲かせました。夢の実現までには幾度も桜の季節を迎えることでしょう。年月を重ねても初心を忘れることなく、着実に歩みを進めて参ります。今後とも皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

北海道斜里町



知床自然教室の30年

今年7月、知床は世界自然遺産登録から5年を迎えます。遺産登録にあたり、「しれとこ100平方メートル運動」は、知床の自然を保全する先進的な活動として高く評価されました。1977年に始まったこの運動がこれからも続いていくために、そして知床の自然を次世代に残していくために何が必要なのか、30年目を迎えた知床自然教室から考えます。

知床自然教室

6泊7日の日程で100平方メートル運動参加者の子弟を対象に開催。野外キャンプを中心に森づくり作業や知床の森の探検を行う。ここ数年の参加者数は40名ほど。地元斜里町や関東、関西の他、海外在住の子どもの参加も多い。写真は第30回自然教室(2009)。

知床自然教室とは

「本当の自然とは何か、何故私たちはこの自然を守らなければならないのかを次世代を担う青少年のみなさんに知っていただきたい。(中略)「しれとこ」を守っていかなければならないのは若い、青年のみなさんだからです。」

これは1980年、第1回知床自然教室の参加者を募る案内文の一節です。それから30年、自然教室はこの思いを受け継ぎながら今も続いています。

100平方メートル運動では、知床の開拓跡地に原生の森を復元する森づくり作業を進めるとともに、知床の森と運動参加者の皆さんをつなぐ「しれとこの森交流事業」として「森の集い(植樹祭)」「森づくりワークキャンプ」、そして「知床自然教室」を開催しています。

毎年夏、自然教室には、小学4年生から高校3年生までの子どもたちが全国各地から集い、知床の自然の中で数日間のキャンプ生活を送ります。テントを建て、かまどを作り、薪を拾い、水を汲み、米を炊き、野外での生活は、けっして楽ではありません。子どもたちは生きるために必死で日々を過ごし、その達成感とともに知床の森の記憶を心に刻みつけてい



2010年度の活動予定 森づくりカレンダー

知床の森づくり、こんなことをやっています。イベントやボランティアの参加者も募集中です。最新情報はHPをご覧ください!



NATIONAL TRUST
The Shiretoko
100m² Movement

ボラ マークの月はボランティア募集中です!

春

4月

雪解けを待って広葉樹の苗木を育てている苗畑での作業が始まります。芽吹きまでの数週間、植樹や大苗の移植、秋の植樹用の苗木の準備などで大忙しです。

5月

ボラ

斜里高校自然体験学習(植樹) 5/19~21

第1回知床森づくりの日・春 5/28~6/1

6月

ボラ

知床世界自然遺産登録5周年シンポ(横浜) 6/12~13

夏

7月

苗畑では雑草が一気に草丈を増し、除草作業に追われます。このほか、シカ柵の補修などに加え、運動地内の川に帰ってきたサクラマスの産卵状況を確認する調査なども行います。

8月

9月

ボラ

第31回知床自然教室 7/30~8/5

第2回知床森づくりの日・夏 8/27~31

秋

10月

ボラ

春同様に秋もまた樹木の植樹、移植に適した季節です。ボランティアの皆さんの手も借りながら、日に日に日没が早まる中、根雪になるまで森づくり作業が続きます。

11月

12月

第14回しれとこ森の集い(植樹祭) 10/17

第14回森づくりワークキャンプ 10/30~11/4

森林再生専門委員会議 11月中旬(予定)

冬

1月

ボラ

冬、運動地周辺は、エゾシカの越冬地になります。シカの冬のエサとなる木々を守るため、保護ネット巻き作業などを行います。看板作製などの屋内作業も冬の仕事です。

2月

ボラ

3月

冬の運動地を歩くスノーシュー・スキーコース開設



参加者募集!

詳しくはホームページで!! 森づくりブログ「森づくり日誌」もご覧ください!

<http://www.shiretoko.or.jp/saisei/>

● 第2回 知床森づくりの日・夏

今年から始まった森づくりイベント第2弾。
4泊5日の森づくり合宿で、夏の知床の森を満喫!

- 日 程: 8月27日(金)~8月31日(火) 4泊5日
- 対 象: 18歳以上
- 定 員: 12名(先着順)
- 参加費: 16,000円(食費・宿泊費等)
- 締切日: 8月20日(金)

● 第31回 知床自然教室

全国から集まった仲間と知床の森で暮らす1週間。
海・山・川、そして動物たちがみんなを待っています!

- 日 程: 7月30日(金)~8月5日(木) 6泊7日
- 対 象: 小学校4年生~高校3年生
- 定 員: 40名(先着順)
- 参加費: 35,000円(現地までの交通費は別途必要です)
- 締切日: 7月4日(日)

● 第14回 しれとこ森の集い

秋の知床で過ごす1日です。午前中は、森の番人の案内で森歩き。午後からは植樹祭です。

- 日 程: 10月17日(日)
- 参加費: 無料

※こちらの参加申込み・お問い合わせは斜里町役場まで。
斜里町役場自然保護係
電話: 0152-23-3131 ファックス: 0152-22-2040

● 第14回 森づくりワークキャンプ

スタッフと寝食を共にしながら森づくりに打ち込む6日間。
森の番人指導のもと本格的な森づくり作業を展開します。

- 日 程: 10月30日(土)~11月4日(木) 5泊6日
- 対 象: 18歳以上
- 定 員: 12名(先着順)
- 参加費: 18,000円(食費・宿泊費等)
- 締切日: 10月20日(水)

● イベントやボランティアの参加申込み・お問い合わせ: 財団法人知床財団 自然復元事業係
電話: 0152-24-2114 ファックス: 0152-24-2115 メール: info@shiretoko.or.jp



写真左／第8回自然教室(1987)。当時の参加者は今や30～40歳代。今は子どもたちを見守る世代になった。
写真下／第5回自然教室(1984)。知床の自然の中に放り出されぼうぜんとする子どもたち。今も昔も変わらない姿。



きます。そしてこの自然教室の森や草原こそ、たくさんの方々の方に支えられ、守られた特別な土地「1000平方メートル運動地」であることを知っていくのです。

これまでの30年間で、のべ1500人以上の子どもたちが自然教室の夏を経験していきました。

知床への回帰

2009年、知床自然教室は30回目の節目を迎えました。9月には「知床への回帰」と題した企画を開催し、全国から自然教室の卒業生とその家族など総勢63名が知床に集いました。一口に卒業生と言ってもその世代は様々、自然教室初期の卒業生はすでに40代、一方最近の卒業生はまだ10代です。ただ世代は違っても、自然教室で過ごした日々と知床への思いは共通です。

その中には、自然関係の仕事に就いた人、関東や関西から知床に移り住んだ人もいます。今は親となり今度は自分の子どもを自然教室に参加させている卒業生も少なくありません。

今回の企画は、かつての仲間と知床に集い、思い出の場所を再訪する中で、子どもの頃に体験したそれぞれの自然教室の夏を振り返るとともに、大人となった自分たちが知床のために何ができるか語

り合おうというものでした。

自分たちを育ててくれたこの知床の森や1000平方メートル運動地が、例えばこれから30年後もあるように、今度は自分たちがそれを守り育て、次の世代へと引き継いでいく番だと参加者の多くが感じています。そして今、そのために何ができるか考え、行動に移し始めています。

この30周年を機に、彼らはネットワークを作り、継続的に知床や運動地について話し合う場を持つようになりました。また、古くから運動を支援していただいている関東や関西の支部に新たに加わり、その支援の輪を引き継いでいこうとしている仲間もいます。そしてなにより、知床を未来へ残していくためにも、しれとこ1000平方メートル運動地について、もっとたくさんの人に知ってもらおうと、自分の身近なところから少しずつ伝えることを始めています。

ある卒業生は「私たちは知床にまかれた種だ」と言いました。今その種はまさに実を結ぼうとしています。

自然教室で育まれた知床への思いは、確実に次の世代へと受け継がれようとしています。「何故私たちがこの自然を守らなければならないのか」という30年前の問い掛けに答える時がきています。

自然教室30周年「知床への回帰」

写真右／キャンプ地へ向かう坂道。子どもたちが必ず通るこの道の景色は年とともに変化している。

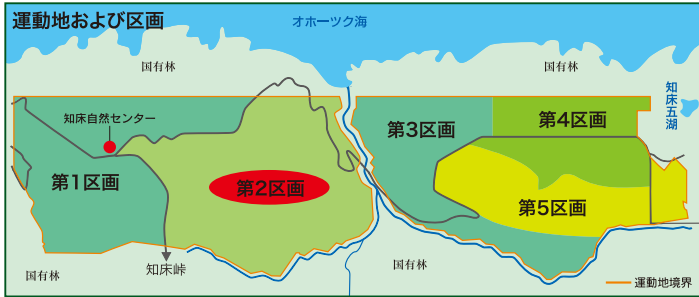
写真下／卒業生とその家族。自然教室の経験は次の世代へと引き継がれてゆく。



2009年度の活動報告

森づくりの様子をご報告します

2009年度の森づくりは、幌別台地の東側に位置する第2区画を中心に作業を進めました。5つの区画を5年で一巡する回帰作業は現在3巡目を迎えています。



第13回森づくりワークキャンプ。雪の中での作業となりました。

秋

森林再生専門委員会。専門家を交え森づくりの結果と計画を話し合うとともに、運動地でのシカの扱いについて議論しました。



第13回しれとご森の集い。100人で約200本の苗木を植樹しました。



5月中旬、ようやく雪も解け、広葉樹の苗を育てている苗畑での作業が始まりました。

春

斜里高校1年生の自然体験学習。生徒80人が植樹を行いました。



前年に放流したサクラマスの子の追跡調査。ふ化した稚魚は順調に成長していることを確認しました。



運動地ではシカから木を守るネットを約800本の木に巻いています。そのネットの補修作業を行いました。



冬

100平方メートル運動ハウスの展示を掛け替えまし



2009年度の森づくりも、シカ対策に追われる日々でした。



苗畑の除草作業を終えたボランティアの皆さん。2009年度はのべ133人の皆さんにご協力いただきました。



夏

第30回知床自然教室。43人の子供たちが知床の森で過ごしました。



夏休み、知床自然センターでのミニレクチャー。計5回約200人の方に運動と森づくりのお話をしました。

2009年度のトピックス1

「エゾシカと森づくり」

森づくりをすすめる上で最も大きな壁となっているのが、数を増やしたエゾシカたちであることは、これまでにもお伝えしてきました。彼らは、明治期に一旦絶滅に近い状態にまで追い込まれながら、その後、旺盛な繁殖力で急激に数を増やしてきました。今や毒や刺などで武装した植物以外はすべて食べつくす勢いで、知床の植生にかつてない打撃を与えています。

世界自然遺産登録後、運動地を含む遺産地域とその隣接地域のエゾシカ保護管理計画が作られました。植生保護柵を設置する防御対策や、植生への影響調査などと合わせて、知床岬地区では3年間にわたって銃による捕獲実験が行われてきました。知床岬地区だけではなく、運動地を含む岩尾別・幌別地区も、個体数調整を実験的に行う候補

2009年度のトピックス2

100平方メートル運動の本が出版されました



『よみがえれ知床 100平方メートル運動の夢』

辰濃和男 編著

関根郁雄 深沢博 著

朝日新聞出版(朝日新書)

777円(税込)

全国の書店で好評発売中!

しれとこ100平方メートル運動がいかに始まり、広まったのか。その歩みをまとめた本『よみがえれ知床』が今年の3月に発行されました。この本の編著者は、運動が全国に広く知られるきっかけとなった1979年の朝日新聞の天声人語執筆者でもある、辰濃和男さんです。その辰濃さんに天声人語執筆当時や、これからの運動に期待することなどについて、お話を伺いました。

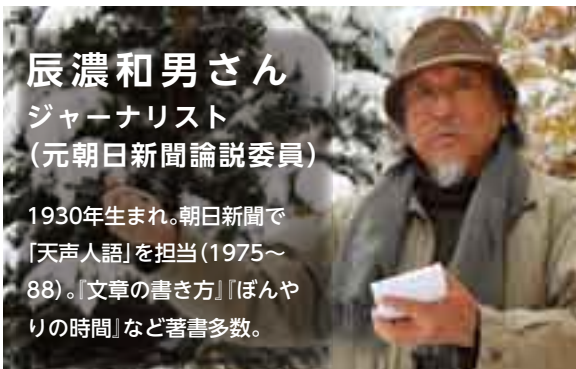
30年前にはじめてこの運動のことを知った時、当時の藤谷町長の着想力に驚きました。そのころ日本は高度経済成長真っただ中でした。土地があればゴルフ場でもつくって儲けようと、世の中のほとんどの人が考えていたような時代です。そんな中であって、土地を買い取って何を作るわけでもなく、ただ元どりの原生林に戻したいというんですから。しかも、国に頼らず、1人1人の力をあわせて何とかしようという。これは日本に生きる人々のよりどころになるような運動だ、そう思い、天声人

語で「あなたも知床で緑の夢を買いませんか」と呼びかけたんです。すると、激励や「運動に参加したいが、どうしたらいいのかわからない」という問合せなどが、ドツとききました。訴えに応じる反響としては、最高クラスでした。当時の時代の奔流の中で、自然が壊されていく痛みを感じていた方々だったのでしよう。私自身も、そうでした。なんとかこの運動を成功させたい。そんな気持ちで、天声人語としてはあまりないことですが、この運動のことを繰り返し取り上げました。

今回の本の執筆のため再び知床を訪れ、運動で買い取ったところを案内してもらいました。森づくりの現場も拝見しましたが、森を育てるといことは、どれだけ大変なことかとあらためて思いました。エゾシカの問題も深刻ですが、そもそも一度失ってしまった自然を復元するのは、どれだけ大変なことなのか、壊すことを何とも思っていない人たちに、知ってほしいと思いました。

『よみがえれ知床』は、1人

も多くの人にこの運動のことを知ってもらいたいと思って書きましたが、運動地そのものも、ぜひたくさんの方に見ていただきたいです。森づくりの現状を知ってほしいというのがありますが、何より、森を間近に感じてもらえば、この森を守りたいと思う方も増えていくんじゃないかと思えます。静かな森にぼんやり座って、運動の歴史や森づくりの事にじっくり思いをはせる。そんな事ができたらいいですね。



辰濃和男さん
ジャーナリスト
(元朝日新聞論説委員)

1930年生まれ。朝日新聞で「天声人語」を担当(1975～88)。「文章の書き方」「ぼんやり時間」など著書多数。

地となっています。遺産地域のエゾシカの保護管理について科学的立場から助言を行うエゾシカワーキンググループでは、銃や麻醉銃を用いた捕獲や、餌で囲いの中にシカを誘い込む方法など、具体的な捕獲手法の検討が行われています。

知床岬地区での実験では3年間で400頭以上のシカが捕獲され、シカに食べられる頻度が減ったことで、イネ科植物やササの草丈が高くなるなど、効果も現れています。ただしこれで捕獲を中断すれば、シカは再び増加し、おそらく10年もかからずにもとの状態に戻ってしまいます。

森づくりの現場は、日々がシカとの戦いで、その防衛が作業の大部分を占めています。シカを減らすことが、森の再生を手助けすることになるのか、そうだとすれば、人の力でどこまでシカの数を減らすことができるのか、現場は大きな苦悩を抱えています。

■ 国立公園内森林保全基金の状況

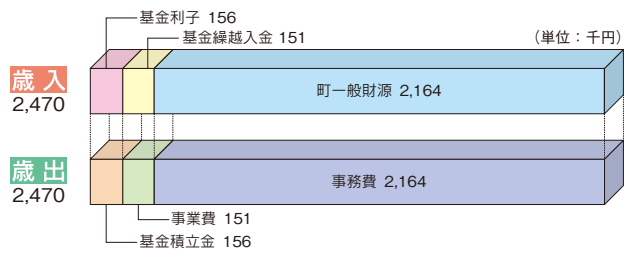
(単位：千円) (2010年6月1日現在)

土地保全管理資金 (保全事業のための資金)		2008年以前		2009年		計		森林再生等資金 (再生事業のための資金)		2008年以前		2009年		計								
歳入	寄付金	522,534	0	522,534	196,218	42,385	238,603	歳入	寄付金	196,218	42,385	238,603	歳出	土地取得	325,113	0	325,113	歳出	事業費	145,519	9,823	155,342
	利息	68,395	156	68,551	802	104	906		事業費	28,426	1,902	30,328		事務費	81,540	0	81,540		事務費	11,725	11,725	185,670
	計	590,929	156	591,085	197,020	42,489	239,509		計	173,945	11,725	185,670		残高	51,635	5	51,640		残高	23,075	30,764	53,839

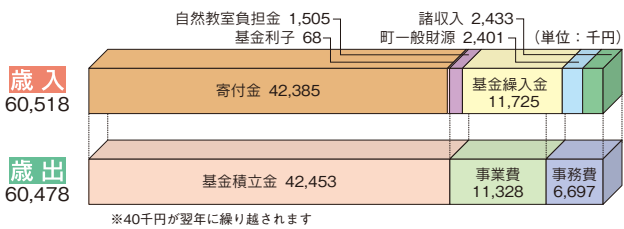
保全された土地の現状 (単位：ha)

運動地面積	保全済み地域	849.98
861.90	(寄付金による取得地	459.26)
	(既存町有地	390.72)
	今後の取得対象地	11.92

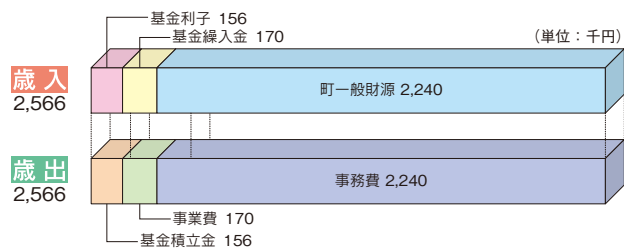
■ 保全管理事業



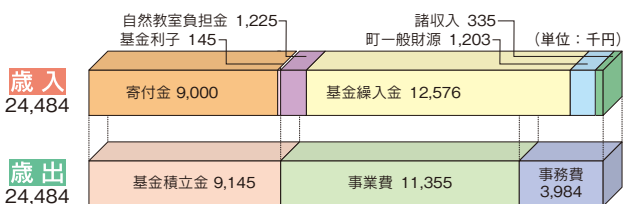
■ 森林再生事業



■ 保全管理事業



■ 森林再生事業



2009年度の事業決算

活動資金の決算をご報告します

100平方メートル運動の活動資金は「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しています。その基金をもとに運動地を管理する「保全管理」と森づくりなどの「森林再生」のふたつ事業を行っています。

■ 保全管理事業

運動地の下刈りなど事業費として約15万円を支出しました。事務費は、主に「しれとこの森通信」の印刷・発送費用で約216万円です。

■ 森林再生事業

森林再生のための事業費として総額約1132万円を支出しました。その内訳は、知床財団への森林再生事業委託費の1100万円が主なものです。また、事務費として、しれとこの森通信や発送用封筒等の印刷費、受付事務員の賃金など669万円を支出しました。この事務費の中には、100平方メートル運動史の編纂・出版費用361万円も含まれています。

2010年度の事業予算

活動資金の予算をご報告します

■ 保全管理事業

事業費として、記念植樹地などの下刈りに、約17万円を支出予定です。事務費の約224万円は主に「しれとこの森通信」の印刷・発送費用に支出します。

■ 森林再生事業

事業費は、森林再生の現地作業やしれとこの森交流事業の企画運営などに約1100万円を支出予定です。事務費の内訳は、事務員賃金(157万円)や運動参加者募集パンフレットなどの印刷費用(69万円)などです。

2010年度の主な森づくり作業
岩尾別台地の第3区画(P4参照)を中心に作業を行います。広葉樹の植樹作業の他、防鹿柵の補修や樹皮保護ネットの巻き直しなどメンテナンスを作業を進めます。

寄付(運動参加)のお礼

たくさんの寄付をいただきました

2009年度もたくさんの方々からご厚意をいただきました。昨今の景気低迷の中、全国各地の皆さんから573件、約4千2百万円の寄付が寄せられました。寄付(運動参加)の件数は前の年より減りましたが、大口の寄付を数件いただいたため、金額はここ数年の中で最高となりました。

静岡県在住の方からは、亡くなられたご家族の遺志として、自然保護のためにと約3千万円もの寄付をいただきました。

30年前に知床を訪れ、感動したという神奈川県在住の方からは、「この森を後世に残してほしい」とのメッセージとともに100万円の寄付をいただきました。

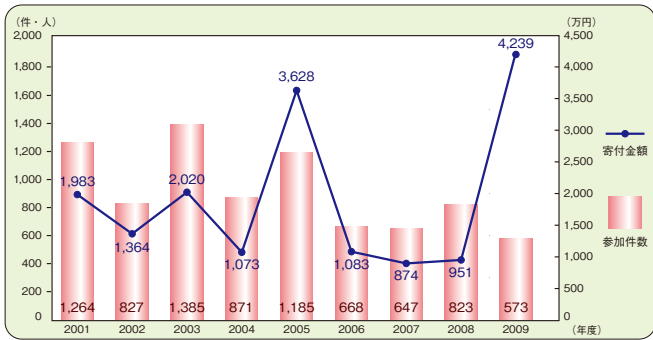
また、KDDI株式会社様からは、約520万円の寄付をいただきました。これは、au携帯電話のスポーツサポートサービスを利

用した環境保全活動グリーンロードプロジェクト「知床Walk」で集まったチャリティ募金の総額です。

寄付金は、森づくり作業の他、知床自然教室をはじめとする交流事業の運営費など、知床の森を守り伝えるための活動に使わせていただいています。

知床の森づくりをご支援くださった皆さまへ、ここに改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

運動参加件数と寄付金の推移



運動史の編纂・出版

32年間の軌跡がまとまりました



前斜里副町長関根郁雄さん(現知床財団理事長)が中心となり、約2年間をかけてこの編纂作業にあたりました。関根さんは『よみがえれ知床』の共著の一人です(P.5参照)。

この度、1977年の100平方メートル運動開始からこれまで32年間(2008年度末現在)の軌跡を運動史としてまとめました。知床の自然保護のみならず、日本のナショナルトラスト運動の先駆けとして、また知床の世界遺産登録に際しても大きな役割を果たしてきたこの運動の記録です。そして、この運動史をよりたくさんの方々に伝えていきたいとの思いから、運動にゆかりのある辰濃和男さん・深沢博さんにご協力をいただき、朝日新書から『よみがえれ知床』が出版されました。

寄付(運動参加)のお願い

知床で夢を育てませんか!

数百年後の豊かな知床の森と生物相の復元に向けた取り組みは、運動参加者の皆さまからの寄付金によって支えられています。引き続き暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

●寄付(運動参加)の方法

寄付金は一口5000円です。

①郵便振替の場合

- ・申込書を郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。
- ・寄付金を郵便振替で斜里町役場にお送りください。

②現金書留の場合

- ・申込書を同封の上、現金書留を斜里町役場にお送りください。



寄付(運動参加)すると! 募金証書をお送りします。ご家族・ご友人へのプレゼントにおすすめです。

お申込み・お問い合わせ先

〒099-4192
北海道斜里郡斜里町本町12番地
斜里町役場自然保護係
TEL: 0152-23-3131 FAX: 0152-22-2040

口座番号: 02740-8-10555

加入者名: 斜里町役場

森通信の発送が不要な方はお知らせください。

通信物の発送停止をご希望の方は、お手数ですが、斜里町役場までご連絡ください。なお森通信は運動のホームページでもご覧になれます。

「100平方メートル運動の森・トラスト」ホームページ
<http://www.town.shari.hokkaido.jp/100m2/>

*申込書のダウンロードや森通信のバックナンバーはこちらから。

◎運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度(ふるさと納税)の対象となります。
・所得税は課税対象額から寄付控除を受けることができます。
・地方公共団体への寄付金に係る控除が拡大され、住民税は課税額から寄付控除を受けることができるようになります。
・対象となるのは5000円を超えるご寄付です。